

# 世界の料理博物館

## 意図

南北に長く、四季がはっきりしている日本には豊かな自然と地域に根差した食材を用いた食文化がある。このように自然を尊ぶ日本人の気質に基づいた「食」に関する習わしを「和食：日本人の伝統的な食文化」と題して2013年12月、ユネスコの世界無形文化遺産に登録された。この登録によって和食の普及がいつそう進むとともに経済などへの波及効果も期待できそうだ。

日本では和食はもちろん、世界各国の料理を食べさせる専門店も数多い。インド料理、タイ料理、イタリア料理、中華料理、韓国料理等。今や日本人は「世界を食べている」のである。

しかし、しばしば本場の料理とは全く同じ物ではなく、日本風にアレンジされている場合が多い。我々は日本的に解釈された世界の料理を食しているといえる。

そこで、憧れの国の、旅したことのある国の料理を本場の味で一度に楽しめるといふ「世界の料理博物館」を考えました。

この博物館は世界各国の魅力を「料理」で知り、食をめぐる文化との出会いの場として、他国における異文化にまで興味を広げてほしいという思いで企画した。

主役は「料理」。他に、その国の食材、調味料、特産品や伝統工芸品等の展示。歴史、Newsを簡潔に説明されたパネルを置くことを考えている。また、各国のエリアは、それぞれその国の雰囲気味わえるようなレイアウトにし、実際に旅行した気分になれるようにしたい。

## 内容

建物は全体的にこじんまりとして大きくない。

上空から見ると正四角形で、側面は温もりを感じる木の壁だが、天井が斜めになっている等、シャープでもある。

周囲には均等に植栽されていて、リラックスできるような広場になっている。横に広い階段を昇ると硝子の正面扉と共に世界各国の国旗が出迎えるように下がっている。

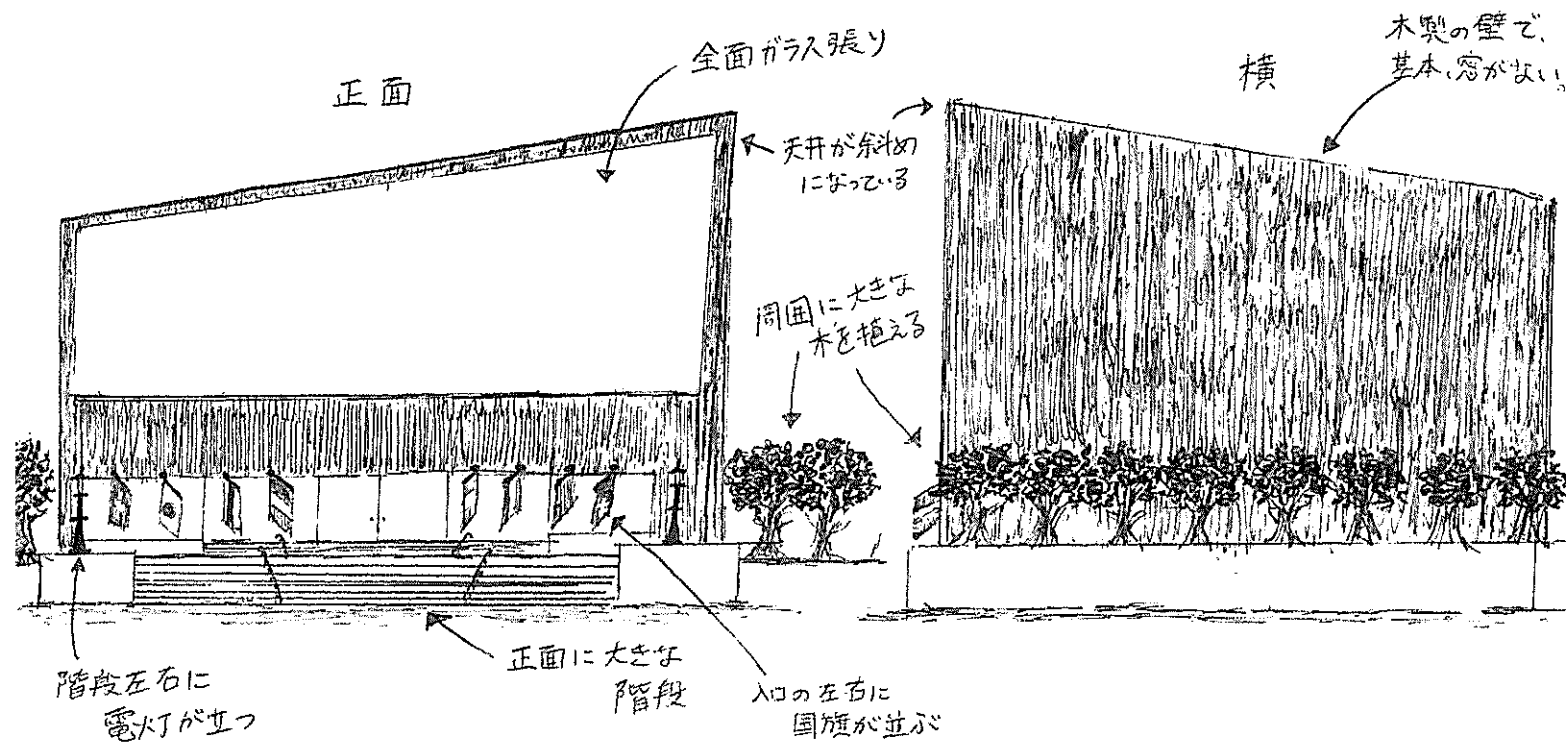
博物館は、地下1階と、3階建てで、階によって国・地域が異なる。

地下1階 = 南北アメリカ (アメリカ、メキシコ、ブラジル)

1 階 = 日本

2 階 = アジア (中国、韓国、インド、タイ、ベトナム)

3 階 = ヨーロッパ (イタリア、フランス、イギリス、ロシア、スペイン)



## ■ 1階

1階はフロアー全て日本のエリアだ。(以下日本エリアとする)

日本エリアには改札がある為、必ず通る仕組みになっている。日本の魅力を多くの人に知ってもらい、改めて日本人としての誇りを実感して欲しいと考えたからである。

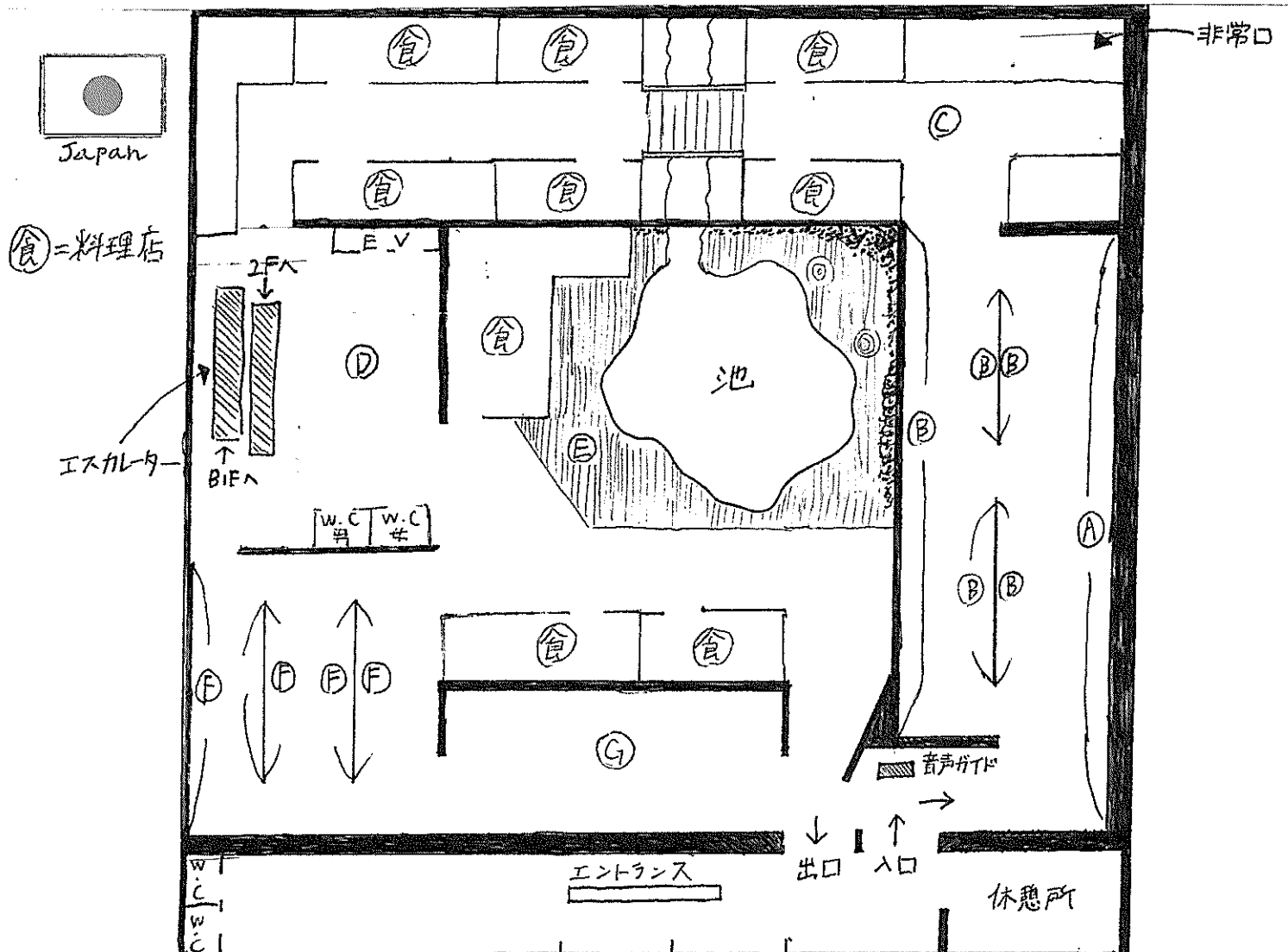
改札を通ると最初に、日本の歴史を紹介するコーナー(④)と伝統工芸品を展示するガラスのショーケース(⑧)が目に入る。工芸品はライトアップし、より美しく見せる。

先に進むと、昔ながらの家屋に突き当たる。左を向くと京都祇園の街並みを思わせる風情あふれる石畳の通りが伸びている。(⑥) この通りは和食を食べさせる店が並ぶ場所で、日本エリアのメインといえる。中央に石橋があり、季節の木々を植栽する。

ピロティ(⑩)を抜けると、日本の侘び寂びの文化を象徴するような趣があり、このエリア最大の面積を持つ日本庭園がある。(⑨) 隣接するように茶室も配する。

次のコーナーでは、相撲や柔道などの日本の国技ともいえるスポーツを紹介し、それに関するものを展示する。(⑦)

日本エリア最後にあるのは、民芸品、工芸品や、土産物を揃えたミュージアムショップである。(③) 外国人観光客も土産として喜ぶような品物も置く。



## ■ 2階

1階（日本エリア）のピロティにあるエスカレーターで2階へ行く。

中国エリアでは、まっすぐ伸びる通りの両側に店が並び、赤い看板や派手な看板が目につく賑やかな情景。(A) 歴史パネル (B) と伝統工芸品の展示がある。

タイエリアは、タイの街並みをイメージし、中央に仏像を置く。(C) 歴史パネルとビデオでタイの民族舞踊を流す。

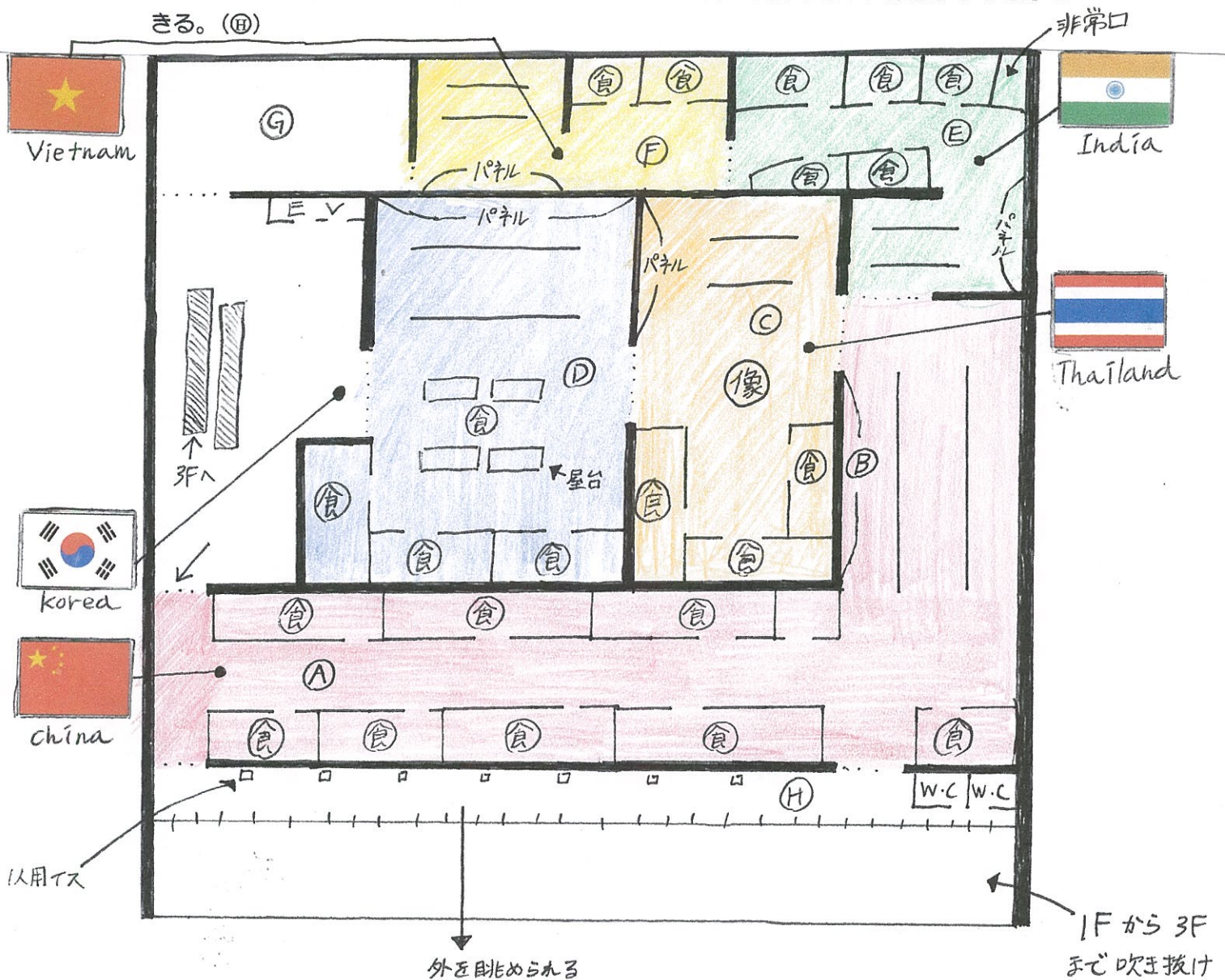
韓国エリアは歴史パネル、展示品。中央には屋台式の店がある。(D)

インドエリアでは小さいカレーショップがひしめき合うように並び。(E)

ベトナムエリアは街の市場をイメージして歴史パネルも含め、狭い空間にゴチャっと配置する。(G)

ベトナムエリアのとなりにはアジア諸国関係のミュージアムショップがある。(H)

1階のエントランス付近は3階まで吹き抜けになっている為、2階の正面口に面した外廊下には1人用の椅子が均等に置かれ、ガラス越しに外の景色を眺め、休憩することができる。(I)



### ■3階

最上階まで来た。ヨーロッパのフロアはこの博物館のなかで一番複雑な迷路のようになっている。

イタリアエリアは曲がった坂道になっていて、途中に噴水がある。コロッセオの巨大な壁面があり、イタリアローマの中心街を思わせる。(A)

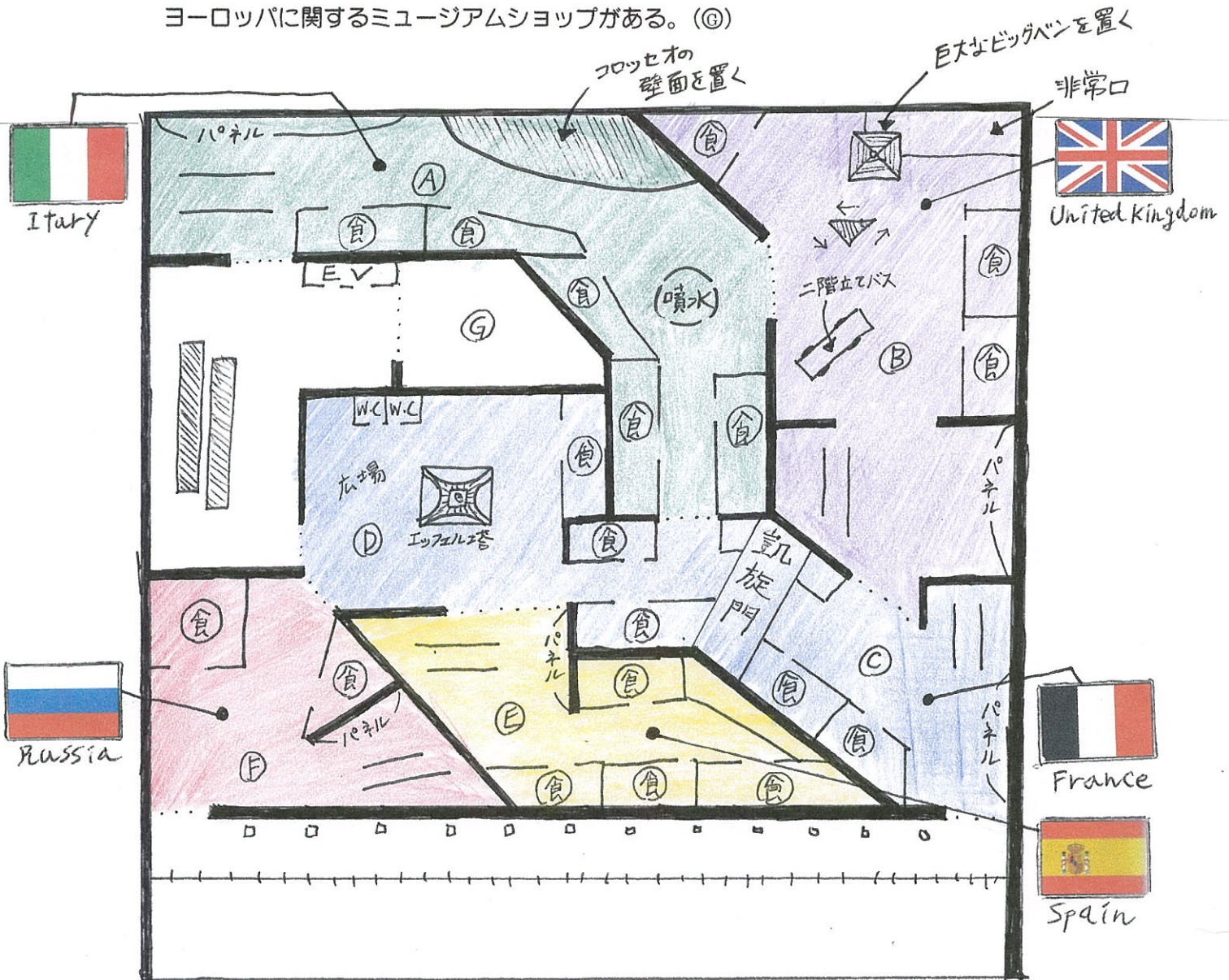
一番奥にあるイギリスエリアは、大きなビッグ・ベンが目印となる。周囲にはレストランが並び、本物の二階建てバスを駐車する。(B)

フランスエリアはレストランが通りに沿って並び、シャンゼリゼ通りを思わせる。(C) 凱旋門を通り抜けるとエッフェル塔が立つ広場にたどり着く。(D)

スペインエリアでは、レストランなど、建物が型破りな姿をしている。あの、サグラダファミリアを設計したガウディのデザインをイメージして作られている。(E)

ロシアエリアでは歴史パネルとビデオにてクラシックバレエを観せる。(F)

ヨーロッパに関するミュージアムショップがある。(G)



## ■地下1階

基本的にアメリカが中心となって構成される。エスカレーターを降りると中央に大通りが見える。ここがアメリカエリアの入口となる。中央にある通りはニューヨークのブロードウェイを思わせ、沢山の店で賑わっている。(A) この道は二つに分かれるようになっていて、中央には館内唯一の映画館がある。(B) ここでは洋画作品をランダムに放映し、いつでも観ることができる。

左側の道を進むとメキシコエリアに入る。メキシコエリアは屋台を中心に置き、マヤ時代のピラミッドを店の前に配置する。(C)

映画館を右側に進むと大きな水場があり、自由の女神像が置かれている。アメリカの象徴といえる。(D)

さらに進むとブラジルエリアに入る。ブラジルエリアには中央にサンバのダンスを披露するためのステージがある。(E) それを囲むようにレストランが配置し、一番端にブラジルを代表するスポーツであるサッカーを体験できるコーナーを置いた。

